

## ボランティアの感想

山本さつき

東日本大震災が起きて、自分自身の生活が全く変わりなく過ぎていくことに「日本で起こっていることなのに自分は何もできないのか？」と思うようになった。そこで被災地に行って、少しでも被災地の人の助けになりたいと思いボランティアに参加した。

自分の目を見た被災地は、2 か月ほど経っているにも関わらず 3.11 のままであり、今まで見たことがない世界であった。被災地に行く前は、自分が出来ることはもっと達成感の得られる作業だと思っていた。しかし被災地の状況は悲惨で、私たちの行った作業は本当に小さなことのように思え、もどかしさだけが残った。しかし、被災地の人はずっと明るく、大学生の私たちが訪れたことにすごく喜んでくれた。作業とは違うが行く意味がそこにはあった。

また、被災地に行って改めて人との関わりの大切さや、現在の生活がどれほど幸せか分かった。

まだまだこの先長く多くのボランティアを必要としているので、学生の今だからこそ多くの人に行ってほしい。

他の大学には珍しく三重大学ではボランティアにおける学業上の配慮をして下さったことに感謝します。